



2017.4.1
Vol. 51

北海道サケ ネットワーク Newsletter

発行 阿部周一
事務局 木村義一 札幌サケ協議会
〒004-0022
札幌市厚別区厚別南7丁目18-19
Tel/Fax : 011-894-0081
e-Mail : giichiketa@yahoo.co.jp
URL : <http://salmon-network.org/>



新代表 阿部周一さん

新代表あいさつ

この度、本ネットワーク代表を仰せつかりました阿部です。北大と岩手大で水産教育研究に携わり、主にサケ類の増養殖に係わる遺伝学的研究に従事してまいりました。

食材としてなじみ深いサケ類ですが、まだなぞが多い生き物です。生き物としての面白さに加え、食文化や水産を通して人と深い関わりをもつサケ類は、人と環境との関わりを考える仲立ちとしても大切です。

しかし、昨今、温暖化による気候変動や海の環境変化、人間活動による環境破壊や外来種の問題、世界的な魚食需要の高まりなどサケ類にとり生き難い状況になってきています。このような中でサケ類を守り残して行くには、分野を越えた協働が必要です。この意味で本ネットワークの存在とその活動は非常に貴重なものと考えます。

2006年の発足以来本ネットワークも昨年で10年の節目を迎えました。サケをシンボルとして「豊かなふるさと」を守り伝えるために活動する市民運動や参画団体間の連携を図るといふ本ネットワークの理念を一層推し進めるため、微力を尽くすことが出来れば幸いです。

このために、サケ類に関する情報の紹介や共有、発信をより良く進めることができるようなシステムを考えていきたいと存じます。会員の皆様そして役員、事務局の皆様には、これからもご理解とご協力をどうぞよろしくお願い致します。

(阿部周一)

2017年度総会・サケ会議

- 先の総会(2016・11・12)で会計年度及び総会の開催時期が変更になりましたが、その新年度の総会を下記の通り開催いたします。
- 総会と並行して開かれていたサケ会議(旧北海道サーモン協会主催)も、札幌サケ協議会のご尽力により、今年度もこれまで通り開催されることになりました。

北海道サケネットワーク総会

- ▶日時：2017年5月27日(土)
役員会…12:15～
総会…13:00～
サケ会議…14:00～17:00
- ▶場所：札幌エルプラザ2F環境研修室
住所…〒060-0808
札幌市北区北8条西3丁目28
電話…011-728-1222
入口：札幌市男女共同参画センター
(JR札幌駅北口より徒歩3分)

北海道サケ会議

- ▶テーマ：「サケマス資源の展望」
(趣旨) 水産資源により維持されてきた我が国のサケマス資源は、近年減少の傾向にあります。
サケマスは、北海道や東北など北日本の主要漁業資源であり、その漁獲の低迷は地域経済にも大きな影響を与えています。

資源減少の原因として、ふ化放流の問題や地球温暖化による気候変動と海洋環境の変化などがあげられていますが、まだ不明な点が多いようです。

このような状況の中、サケマス資源に関する現状を知り、今後の展望を得るため、今回、沖合サケマス資源の現状、サケマス漁業や養殖の課題などについて、専門家のお話を伺うことにいたしました。

(事務局)



宝の持ち腐れ？

貴重な資料の活用を！
「ネットワーク会報」

- 「北海道サケネットワーク会報」が創刊号から第8号まで発行されています。
- 本会顧問の浦野明央先生のご労作ですが、ご覧にならない方は、本会のホームページを開いてみて下さい。
- サケに関する情報、教育、研究、エポック記事、会員紹介・活動、総会報告などがぎっしり載っています。
- 市販の書籍等では得られない貴重な資料が満載です。ぜひ、ご活用下さい。



サケ情報

サケの季節の終わりと始まり

北海道を旅立ち、遠くベーリング海で成長したサケが親となって帰る季節は終わりを告げました。この項では、今季のサケの来遊状況を整理してみます。

北海道におけるサケの来遊数（沿岸の定置網と河川の捕獲場で獲った魚の合計数）は、2004年に約6千万尾を超えてから徐々に減少しています。特に2010年以降は4千万尾を下回る年が多く、早期の回復が望まれていました。

しかし、残念ながら今季も減少傾向に歯止めがかからず、来遊数は2004年以降で最低の約2.6千万尾まで低下してしまいました。来遊数の低下には様々な要因が関係していると考えられますが、海の水温もその一つです。

例えば、稚魚が川を下って海に降りた時に、好みの水温で一定期間を過ごせるか否かがその年の生き残りを左右するとの指摘があります。サケは主に4歳で帰るので、今季に帰った親が稚魚として海へ降りた4年前に遡って沿岸環境を調べてみると、水温が例年より急激に上昇した海域があったようです。

もしかすると、4年前に海へ降りた一部のサケ稚魚は不適な環境に晒されて死亡が増え、来遊数の低下に追い打ちをかける結果となったのかもしれない。

また、昨秋は台風の当たり年でもありました。北海道に上陸した台風は定置網や捕獲場に被害を与え、せっかく帰って来たサケを捕まえることができない地域がありました。このことも、

結果的に来遊数を低下させた要因といえるでしょう。今季のサケは、海へ降りる時も、帰る時も厳しい環境だったといえそうです。

このように親の季節が終焉を迎える一方、各地では稚魚の放流も始まりました。今春も、北海道から約10億尾の魚が放流される予定です。また、これら放流魚に加え、野生魚も誕生しています。旭川近郊の石狩川上流域では、産卵床から続々と顔を出して成長するサケ稚魚の様子が観察されました（日釣振の山田さん情報）。新たな命が少しでも来遊数の増加に繋がることを期待したいものです。

(伴 真俊)



サケ大きく育て

旭川・忠別川 子供ら稚魚放流

稚魚は川をのぼる。今年もサケの放流が、旭川市神楽岡公園の忠別川河畔で行われた。今年も、北海道から約10億尾の魚が放流される予定です。また、これら放流魚に加え、野生魚も誕生しています。旭川近郊の石狩川上流域では、産卵床から続々と顔を出して成長するサケ稚魚の様子が観察されました（日釣振の山田さん情報）。新たな命が少しでも来遊数の増加に繋がることを期待したいものです。

（伴 真俊）

北海道新聞 2017年3月27日（日曜日）



会員情報

大雪と石狩の自然を守る会

4000尾のサケ稚魚を放流

第34回サケ出発式・カムイチェブ・ノミが、3月26日（日）旭川市神楽岡公園の忠別川河畔で行われた。

この日は朝から快晴、風もなく春さながらの陽光が降り注いで、絶好の出発式となった。

午前9時30分、稚魚の入ったバケツや水槽を持った“サケの里親”を始め参加する市民が、会場に三々五々と集まってきた。川岸に置かれた酸素ボンベ付の大きな水槽に、家庭や学校・幼稚園・保育所などで昨年12月から育てられていた稚魚が次々と入れられ、準備が整った。

午前10時、250名の参加者が見守る中、忠別川の川岸を覆う厚い積雪の上に設けられた祭壇の前で、チカップニアイヌ文化保存会のメンバーによる儀式カムイチェブ・ノミが行われた。

儀式的解説やムックリの演奏があった後、祭壇のイナウが川に流され、続いて稚魚の放流が行われた。今年の放流総数は約4000尾。昨年に較べると死亡数も少なく、順調に飼育・放流することができた。

なお稚魚の放流は、この日同じ時間に石狩川支流愛別川で、また前日には忠別川でも行われた。この他、石狩川本流栄園橋上流には人工産卵床が設けられ、約2万粒の受精卵が埋設されている。

(寺島一男)



「サケが生まれた川に帰る不思議」講演会



あさひかわサケの会等が主催する「2017 会員会議記念講演」（公開講座）が、2月4日（土）旭川市神楽公民館で開かれました。

北海道大学北方生物圏フィールド科学センターの上田宏名誉教授が、最新の研究成果なども折り込みながら、標記の演題について一時間超に亘って講演されました。

専門的な話でありながら、一般の人にも分かるように丁寧な解説と楽しいエピソードが加えられたこともあって、約60名の参加者が終始熱心に聞き入りました。

情報をお寄せ下さい！

会員の皆さんの動き・サケに関する情報・イベント等がありましたらぜひ編集担当（寺島）までご一報下さい。

tera2112@potato.ne.jp